

津島市タウンミーティング（永宝団地自治会）会議録

日程 令和5年7月1日（土）
午後1時30分～3時10分
会場 永宝団地集会所

1 意見交換（要旨）

テーマ「2大プロジェクト！『まちづくり再生と子育て支援』」

津島市で進めているまちづくり再生・子育て支援施策の紹介・進捗状況について市長より説明し、参加者と意見交換を行った。

（1）市民病院の現状について

意見

市民病院は風評が良くない、人気が無いといった話をよく聞く。私たち市民が利用していて、孫の代まで残していきたい市民病院には将来に向けて安定した病院であってほしいと考えている。何故市民病院の評判が悪いのか、また病院全体の現実について、市長の見解を伺いたい。

市長

まず、市民病院の価値をどうとらえるか。人口6万人の自治体で市民病院を持つことは大変なこと。それにもかかわらず、市民病院の経営を続けているのは市民の健康のためである。身近に市民の健康を守るという位置付けが市民病院にはある。市も現在その運営に善処しているところである。現在は、私自身が名古屋大学病院の医局に出向き、医師を招集できるように努めている。現在市民病院に在籍する医師の約半分は、名古屋大学の医局から送られてきている方。これら名古屋大学病院系の医師は、海南病院や春日井の市民病院、半田病院といった複数の病院を定期的に回っている。そのため、勤務している医師によって津島市民病院が良し悪しは言えるものではない。また、市民病院は平成29年度から令和3年度の5期連続黒字を達成しており、令和4年度も2億7,000万円の黒字。だが、市民病院としては黒字であることも問題。市民から料金をいただきすぎているのではないかと思われてしまう。私が就任してから市民病院が赤字だ黒字だということを様々な方から言われてきた。このことは議会でも徹底的に話しをされている。本来は市民の命・健康を守る砦であることが重要なことであり、今もこれを継続していくことに注力している。市民病院はコロナ禍ではしっかりと役割を全うしてきた。結果として国からの補助金も受け取ることができた。コロナのおかげで市民病院は黒字になったという方もいるが、3年間のコロナ禍に対して市民病院の連続黒字は5年間。コロナだけで市民病院の経営が黒字化しているというのはあまりにも失礼な話である。

市民病院に対する苦言もすべて受け入れて、市は皆さんのために何ができるかを考

えて進んできたし、これからも進んでいく。

(2) 天王川公園のトイレについて

意見

天王川公園の改修を行っているが、公園中央にあるトイレの改修は行うのか。また、今の若い世代ではお父さんが子どものおむつを替えることも多々あるが、今の男性トイレにはそのようなスペースがないので、トイレの改修を行う場合にはそのような配慮をする予定はあるのか伺いたい。

市長

質問にあった公園中央にあるトイレの改修については来年度予算での対応を考えている。第一弾として公園南にあるトイレの改修は完了している。公園中央のトイレについても近くにスターバックスコーヒーができることもあり、問題が生じてくるため、設計・施行を合わせて来年度に完了することができたらと考えている。ただし、浄化槽がキャパオーバーになっていることが問題として挙げられる。そのため下水道を改修する必要があるが、この改修は大工事になることが予想される。これらのことは今しっかりと検討を行っている。来年度1年間では改修が完了しないかもしれないが、市としてもその重要性は理解しているので、必ず取り組んでいく。私の任期中には必ず完了させる。市は天王川公園のトイレ改修を最重要課題としてとらえている。先駆けてまずは公園南のトイレを改修したという状態。

このようにトイレをきれいに改修することは大切で、実際コロナ禍でも市内のトイレを改修している。しかし難しいのは、名鉄津島駅のトイレ。様々お願いしてはいるが、なかなか話が進まない。

(3) 名鉄津島駅のトイレについて

意見

観光市を目指すのであれば、名鉄津島駅のトイレはこのままではいけない。どこかに出かける際にトイレは大事だし、駅は市の顔です。

市長

承知している。名鉄に何度もお願いをしてはいるが、難航している現状。他人の敷地内にあるトイレを市の予算で改修するとしても、それは市民の皆さんの税金で行うことになる訳で、それが認められるのかという問題もある。ただ、現状としては名鉄にお願いをすることしかできない状態。ただし、包括連携を結んだりと少しずつ変化もある。楽しみにお待ちしております。

意見

長生きをして待っています。

(4) 学童指定管理者の募集方法の変更について

意見

様々な方にお力添えいただいたおかげで今のたんぼぼクラブがある。とても良い施設を作っていたいただき、おかげで子どもたちが元気に過ごしている。市長が話すデジタル施策は、今後の子どもたちに必要となる素晴らしいことだと思う。その反面、子どもはデジタルだけでは育たない。身体を使って自然に触れて育つことが大事だと思うと、学童保育のような子どもたちがスキンシップを取って遊べるような施設も大事にしていきたいという思いがある。たんぼぼクラブは神島田地域の方に育てていただいた学童保育。私自身創立当初からいて、ご迷惑をおかけしながらも勉強を続けて今に至っている。先日ふれあいフェスタの際に、市長が言われた「コミュニティは大事」という言葉にとっても励まされた。当初はただの学童保育だったたんぼぼクラブも今ではやっとコミュニティのふれあいフェスタのスタッフとして、たんぼぼクラブの父母全員がふれあいフェスタに関わることができる形に今やっとなってきた。そんな中、学童保育指定管理者の公募という話がでてきて、これらの繋がりを断ち切られることがとても辛い気持ち。なぜかという、プレゼン能力を始め、競争原理が働く環境の中で NPO は強い存在ではない。子どもたちが暮らす環境について、国の運営指針で言われた際に一斉保育は難しい。個々の子どもに寄り添って保育を作っていくときには、指導員の数も必要。一斉保育ですべての子どもたちに同じことをさせるようでは、それぞれの子どもの発達に備えていくことができないと考えている。指定管理者が公募になり、企業が介入してくることを私は一番不安に思っている。どうしても利益を追求する立場の方が保育をするということに抵抗感がある。全国的に見ると、決して心温まる話は聞こえてこず、心を痛める思いばかりをしている。市長のお話を伺いたく、今回のタウンミーティングに参加させていただいた。

市長

市では「子育てするならつしま」を目標に掲げている。1月に議会でも答えているが、現在の指定管理者も公募に申し込んでいただいて結構。そして現在学童で働く方は（指定管理者が変更したとしても）希望すれば継続して働くことができることを条件に公募をする予定。市の学童の指定委託料は県内 54 自治体中 2 番目に高く、1 人あたりにして 28 万円と県平均の 15 万円と比べて約 2 倍となっている。市は学童保育に県平均の 2 倍の額を支払っている、それなのに市長への手紙として以下のような意見が届いている。私はこれらの事実をそれまで知らなかった。

- ・学童保育の料金が近隣の自治体と比べて高額。何故このような格差があるのか。
1・2 年生の料金は 14,000 円（お菓子代を含む）となっている。あま市・弥富市は 5,000 円、稲沢市は 4,000 円、愛西市は 6,000 円。一般的なパート従業員の家庭では、料金が高額なため、預けることを辞めてやむを得ず小学校に入った時に勤務時間を減らして収入がかなりダウンするケースが多い。月額 14,000 円の学童保育料はパート収入に対して割高。どうしてくれるんですか。
- ・夫婦共稼ぎで多忙なのにも関わらず、学童を利用していると土日にイベントがあ

り、家族の時間が潰れる。働く親のための学童なのに親への負担が大きすぎる。時代に合わせてそのようなことを無くしてほしい。

- ・学童保育の費用も異常に高いうえに、保護者主体の集まりが多くて使い勝手が悪い。正直津島市での教育に限界を感じている。しっかりと子育て世帯を応援してほしい。近隣自治体と比べて、津島市の子育て施策は底辺のレベル。市外に引越したいと思うほど。支援の差があるので、津島市に住んでいることを日々後悔している。どうにかならないのか。

これらの様な不満の声を複数いただいている。私が市長に就任した際に 3,200 万円であった学童の指定管理料を今は 1 億円と約 3 倍にしている、県内では 2 番目。それなのにも関わらず、近隣自治体の学童保育料と比べてそれが 2・3 倍と高い。また、他自治体は行っている夏休み期間のみの限定預かりを、津島市だけ行っていない。こちらについては私からも学童に再三お願いしたが主張は認められず、学童にお願いすることは諦めた。そのうえで、春休み・夏休み期間に利用できる「居場所づくり」事業を単独で作ったほどである。

改めて言うが、今の学童さんも今回の公募に応募していただいて結構。非公募の一人指定ではなく、競争原理の働く公募方式で広く事業者を募るとことにすると担当者と協議して決定した。市長への手紙できた内容についても私は全然知らなかった。今までは、非公募でも頑張っていたいただいているとのことで、そのままハンコを押していた。ただ、今回市長への手紙でこのような意見があることを知った。県内 2 番目の事業費を市が出しているのに、保育料が近隣自治体と比べて 2・3 倍と高いことから、足を止めることも間違いではないと考えた。なので、もちろん応募していただいて、いい提案をしていただければと思う。内容の分かる人が審査するので、プレゼンテーションの良し悪しは問題ではない。競争原理の働く公募方式で広く事業者を募るので、ぜひここでプレゼンテーションをしていただき、勝ち抜いていただきたい。これがすべて。

意見

自分の子どもを愛西市の学童に預けていた。津島市と違うことは、愛西市の学童は公立が基本であること。そのため保育料は公立のまま推移している。対して津島市は父母会が運営を行っている。そのため人事もお金もすべて父母の財布から出している。そこにプラスアルファ補助金をいただいている形になっている。

市長

いや、違います。全部調べた。その結果、公立だから安いといったことはなかった。公立や民間等もすべて含めた調査の結果、他自治体よりも 2・3 倍と高いという意味。今回の調査で、県内 2 番目の事業費を市が出しているのに、保育料が近隣自治体と比べて 2・3 倍と高いことが初めて分かった。そのため、勘違いをされている。市は手厚い事業をしている。それなのにも関わらず、(現指定管理者は)一般の皆さんから高額なお金を取っている。

意見

それは私たちの人件費です。津島市では選任指導員と呼ばれる常勤指導員を必ず置き、その他にパート指導員を置く方法をとっている。これは全国的に見ると、子どもにとってかなり手厚いやり方。

以上。